

調査地概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-02-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀口, 理帆 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/9313

調査地概要

1 調査概要

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、人類学的なフィールドワークの手法を実際に学ぶために、毎年現地調査をおこなっている。2015年度は5月18日から24日までの7日間、静岡県静岡市清水区由比に滞在し、現地で調査をした。

今回の実習には、教員4名、学生12名の計16名が参加し、由比の玉鉾旅館に宿泊した。学生はそれぞれ生活文化、地域おこし、産業、地域社会の4つの班に分かれ、地域の人々の生業、歴史と文化、地域おこしについてそれぞれ調査を進めた。滞在前には、事前調査として文献やインターネットから由比の地理や歴史、人口統計などに関する資料を収集した。これらのフィールドワークでは参与観察とインタビュー調査のほか、文献、写真、映像などの資料を収集した。

2 静岡市清水区由比の概要

2.1 地理と交通

静岡市清水区由比は静岡市の東部にあたる、面積23.03平方キロメートル、人口8500人ほどの地区である。東西交通の要衝でありながら、西側が薩埵峠に挟まれた交通の難所だったため、「東海道の親不知」として古くから有名である。また、歌川広重の「東海道五十三次」にも由比は描かれており、薩埵峠から見える富士山は絶景である。

由比は北西に浜石岳を抱え、南東には駿河湾がひらけている。主な河川である由比川・和瀬川が駿河湾に注いでいる。由比町史編さん委員会によると、旧由比町は南北約10キロメートル、東西4.6キロメートルの南北に細長い形をしており、気候は極めて温暖で積雪することはほとんどないそうだ（由比町史編さん委員会 1988）。由比は、東は静岡市清水区興津地区、西は静岡市清水区蒲原地区に接している。かつては、由比町（現由比）・東側に隣接する蒲原町（現蒲原地区）・北側に位置する富士川町（現在は富士市に合併）の三町で庵原三町とよばれていた。

由比の主要な交通として、旧東海道や東海道新幹線、JR東海道線、東名高速道路、国道1号が東西を横断し、それから静岡県道76号富士富士宮由比線が南北に走っている。由比を訪れるには車でこれらの道路を通るか、またはJR由比駅から徒歩で行くことができる。由比駅は由比の比較的南西部に位置し、街は由比駅の北西の由比川周辺を中心に開けている。

2.2 産業

由比といえばサクラエビが有名である。サクラエビ漁の始まりは1894（明治27）年であ

り、以後、漁具・漁法の改善を行って、次第に駿河湾の重要な地場産業に発展してきた。現在、沿岸の三町（蒲原町・由比町・大井川町）の60統120隻の漁船が、静岡県から特別許可を得て、一年に2回漁がおこなわれ、年間約3,000トン、約32億円分のサクラエビが水揚げされている（『さくらえび漁業百年史』より）。

名物である桜えびを宣伝するために由比港漁業協同組合と由比町桜海老商工業協同組合などが桜えびのブランド化を進め、2006年11月、「由比桜えび」「駿河湾桜えび」の商標登録が特許庁より認可された。毎年5月3日に行われる『桜えびまつり』には県内外から観光客が訪れ、今年は2年ぶりの開催ということもあり7万人の来場者を記録した。また、現在では、由比漁港周辺に直売所や『浜のかきあげや』という食事処が開かれ、漁期以外でもサクラエビを楽しむことができる。また、2007（平成19）年からは「まちの駅」という個人宅や商店を活用した無料で休憩できるまちの案内所ができて、観光客が由比に親しみやすい環境となっている。

また、漁業だけでなく実は農業も由比を支える産業である。由比の温暖な気候と海からの太陽光の反射が活かされる地形は、ミカン栽培に適している。急斜面は林地となっているが、山麓部の寺尾や西山寺、それから白井沢にかけての地域は、傾斜が緩く樹園地として広く利用されている。また寺尾・倉沢地区ではビワ栽培も行われている。しかし、近年農家数は減少傾向であり、農家の高齢化も進んでいる。

3 学区と人口

由比には現在、由比小学校と由比北小学校の2つの小学校がある。もともとは別の名前だったが、1950（昭和25）年に校名は町屋原小学校を由比西小学校に、北田小学校を由比東小校に、入山小学校を由比北小学校に変更することになった。そして、1967（昭和42）年4月1日に東西小学校が統合し、由比小学校となった。よって現在は、由比北小学校に入山区と室野区の住人が、由比小学校に阿僧区や東山寺、北田、由比、町屋原、西山寺、今宿、寺尾、それに倉沢区の児童が通っている。児童数は年々減少している傾向にある。

次に地区全体での人口の変遷をみていく。旧由比町の人口は1925（昭和25）年の14,386人をピークに年々減少し、1992（平成4）年には、過疎活性化特別措置法による地域指定を受けた。しかし、過疎地域活性化計画がすぐに打ち出され、人が町外に流れさらに過疎化するのを防ぐために宅地造成などが行われた。1999（平成11）年には過疎地域指定から外れた。

1988（昭和63）年や2009（平成21）年、それから2015年の年齢別人口の推移をまとめると表1のようになる。2009年、2015年の人口を年齢別にみていくと、15歳未満は169人、15～64歳は753人減少したが、65歳以上は217人増加となっている。全体としては705人減少し、高齢化率は4.92パーセント増加した。現在の由比の高齢化率34.10パーセントは静岡市平均の27.9パーセントを6.2パーセント上回っている。

由比における人口の推移表

年	人口	15歳未満	15~64歳	65歳以上	世帯数	高齢化率
27.6.30 (2015)	8,583	880	4,776	2,927	3,137	34.10%
21.6.30 (2009)	9,288	1,049	5,529	2,710	2,973	29.18%
差	-705	-169	-753	217	164	4.92%
S63 (1988)	11,163			1,708		15.3%

出典：静岡市の人口・世帯（住民基本台帳の過去データ）より堀口作成

4 歴史と行政区画の変遷

「由比」という地名の由来には、共働漁労の「ゆいが浜」形態や、人とつながる「結」や宿場町に関係した「湯井」がもとになっていると言われている。鎌倉時代では由比は、「湯井」とされ、東海道の宿として機能したようだ。1601（慶長6）年徳川家康により宿駅制が定められ、由比宿が東海道16番目の宿となり以後栄えた。1871（明治4）年には廃藩置県によって静岡藩は静岡県となり、翌年1872（明治5）年に宿駅制が廃止された。1889（明治22）年には市制・町村制の施行の施行に伴い、由比宿は、周囲の10ヶ村（北田村や町屋原村、今宿村、寺尾村、東倉沢村、西倉沢村、西山寺村、阿僧村、東山寺村、それから入山村）と合併し、由比町が誕生した。同年には第一回町会議員選挙が行われ、町長の役職と町役場が置かれた。それぞれの村が旧町内の区になったので、翌年には区長制が始まり役場が置かれることになった。その時から2008（平成20）年の平成の合併までのおよそ120年、旧由比町は町制を敷いてきた。

平成に入ってから、桜えび漁業100周年、東海道400年祭を迎え、主要な観光イベントである『桜えびまつり』『由比街道まつり』が始まった。

また、2003（平成15）年4月には静岡市が旧清水市と合併して、新静岡市が誕生した。2006（平成18）年には隣接する旧蒲原町が静岡市と合併し、由比町は飛び地となった。それから、2008（平成20）年の静岡市との合併によって、旧由比町は静岡市清水区由比となり、現在に至る。

地図1 静岡県図



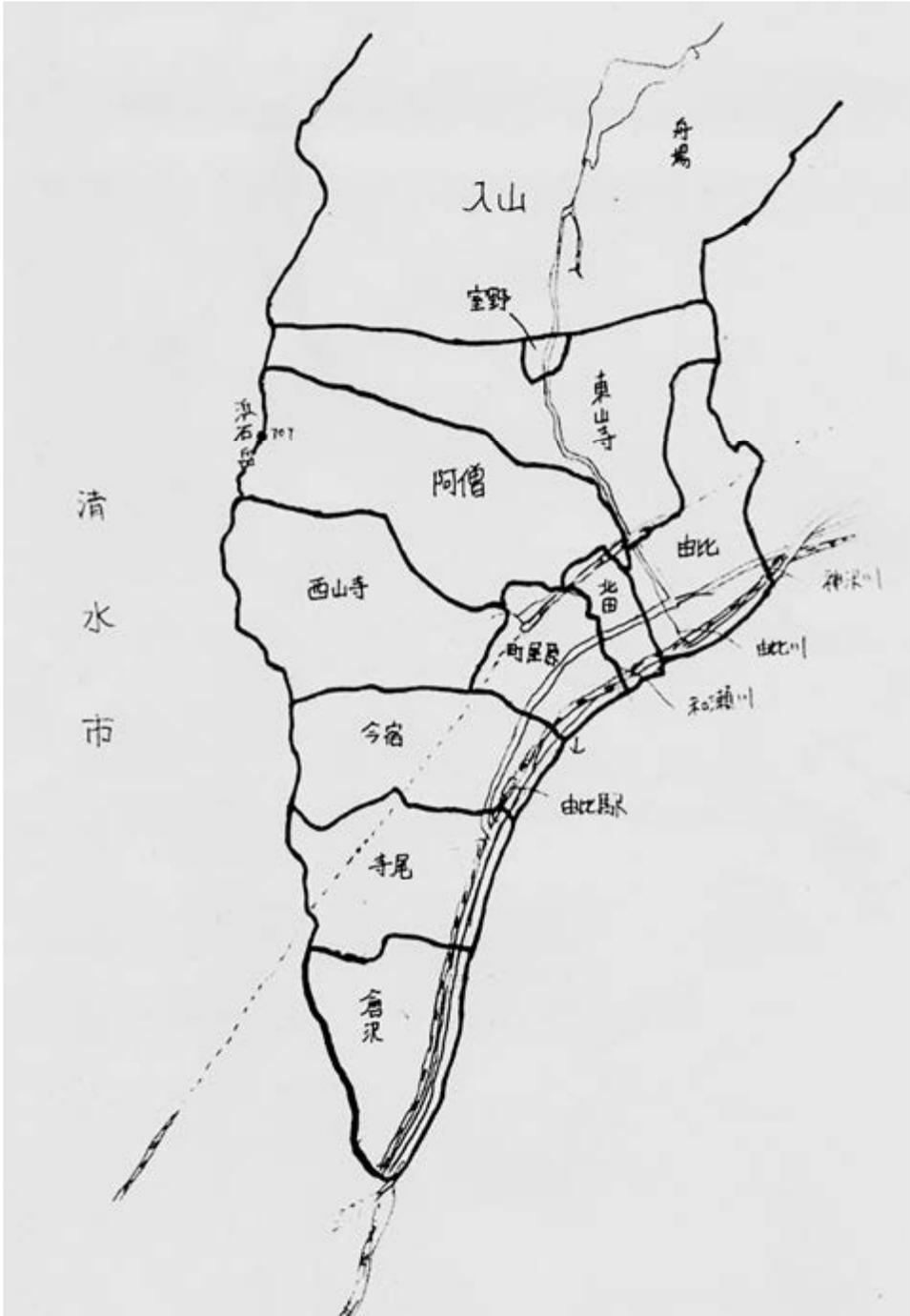
Mapion (2015年10月12日取得、<http://www.mapion.co.jp/>) をもとに堀口作成

地図2 清水区地図



Google マップ (2015年10月27日取得、<https://maps.google.co.jp/>) をもとに堀口作成

地図3 由比



出典：由比町史より中川作成

参考文献

大森信・志田喜代江

1995 『さくらえび漁業百年史』朝日新聞社。

静岡市

2015 「静岡市の人口・世帯（住民基本台帳の過去データ）」（2015年10月11日取得、http://www.city.shizuoka.jp/000_001587.html）。

Mapion （2015年10月12日取得、<http://www.mapion.co.jp/map/admi22.html>）。

Google マップ （2015年10月27日取得、<https://www.google.co.jp/maps/place/%E9%9D%99%E5%B2%A1%E7%9C%8C%E9%9D%99%E5%B2%A1%E5%B8%82%E6%B8%85%E6%B0%B4%E5%8C%BA/@35.0822986,138.3750881,11z/data=!3m1!4b1!4m2!3m1!1s0x601a331f12678a2b:0xe630416f5df53bdc?hl=ja>）。

由比町史編さん委員会編

1989 『由比町史』静岡県由比町教育委員会。

2008 『由比町史 補遺』静岡県由比町教育委員会。